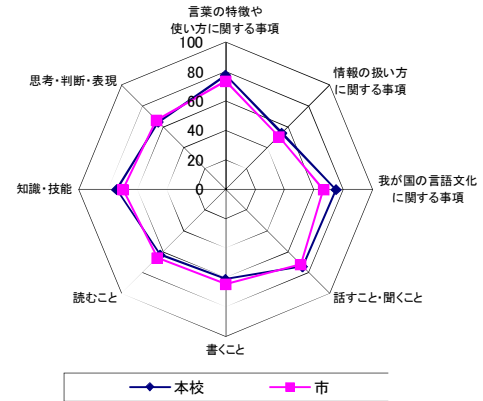


宇都宮市立雀宮東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使いに関する事項	77.5	73.5	74.4
	情報の扱い方に関する事項	54.2	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	75.0	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	74.1	72.3	73.7
	書くこと	61.1	64.3	66.6
観点別	読むこと	63.0	65.8	64.9
	知識・技能	74.0	69.8	70.8
	思考・判断・表現	64.4	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

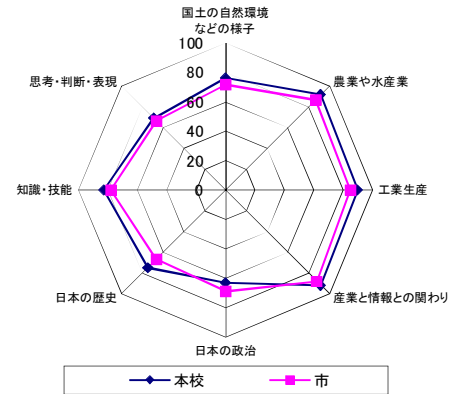
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、市より高い。 ○「三字の熟語の成り立ちについて理解しているか」を問う問題では、市の正答率より高い。これは、日常的に漢字の成り立ちや熟語の意味を考えさせる指導を続けた成果である。 ●「文と文との接続の関係を理解しているか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。	・接続語の働きや接続語の種類を確かめ、文と文との接続の関係を考えながら文章を読んだり書いたりできるようにしていく。 ・漢字の成り立ちや熟語の意味を考えながら、新出漢字の学習に取り組めるよう指導する。また、今後も1人1台端末を活用し、繰り返し漢字の学習をしていく。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市より高い。 ○「情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書いているか」を問う問題では、市の正答率より高い。これは、文章を書く際に、その目的をしっかりと意識して、書く指導を続けた成果である。 ●「情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理しているか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。	・調べ学習をする際に、資料の読み取り方や、資料に関連付けて考えることなど、資料を読み取るポイントを示し、情報を整理することができるように指導する。 ・1人1台端末を活用し、資料を読み取ったり、複数の資料に関連付けたりする学習を繰り返し行うことで、情報を扱う資料の読み取りの力を高めていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市より高い。 ○「語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解しているか」を問う問題では、市の正答率より高い。これは、自分が興味のある身の回りの語句の意味や由来について調べる活動を通して、話や文章の中で使う指導を続けてきた成果である。	・和語、漢語、外来語の由来や区別について復習するとともに、漢字を学習する際、同じ意味を表す語の組み合わせを取り上げるなどして定着を図る。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市より高い。 ○「意図に応じて、質問を工夫しているか」を問う問題では、市の正答率より高い。日頃から聞き手を意識して発言内容を考える指導を続けている成果である。 ●「話の内容を捉えているか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。	・話し合い活動では、話し合いの意図を明確にし、要点を捉えられるように指導する。 ・国語以外の学習でも、ペア学習やグループ学習を取り入れた伝え合う授業を意図的に行い、一人一人が目的意識をもって聞いたり話したりできるようにしていく。
書くこと	平均正答率は、市より低い。 ○「目的や意図に応じて、書き表し方を工夫しているか」を問う問題では、市の正答率より高い。発表資料や意見文など、さまざまな場面設定で自分の考えを表現する活動を継続している成果である。 ●「指定された長さで文章を書いているか」「予想される反論とそれに対する意見を書いているか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。	・資料から読み取った内容を、目的に応じて簡潔に文章に表現したり、段落を意識して自分の考えをまとめたりできるように指導する。 ・国語以外の学習でも、字数を決めて自分の意見をまとめる活動を意図的に取り入れていく。
読むこと	平均正答率は、市より低い。 ○「叙述を基に文章の内容を捉えているか」を問う問題では、市の正答率より高い。日頃から文章の叙述に基づいて読解を進める学習を続けている成果である。 ●「登場人物の心情について、描写を基に捉えているか」「文章全体の構成を捉えて、要旨を把握しているか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。	・物語文では、描写を基に登場人物の相互関係や心情などを捉えたり、説明文では、段落ごとに要点を押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握したりできるように繰り返し指導する。 ・読書活動を推進し、様々なジャンルの本に触れさせ、読むことの楽しさを味わいながら読解力の向上につなげられるようにしていく。

宇都宮市立雀宮東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	76.1	71.6	69.6
	農業や水産業	91.7	86.7	83.7
	工業生産	89.8	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	91.7	87.7	77.4
	日本の政治	63.2	68.9	71.7
観点別	日本の歴史	74.7	66.7	66.3
	知識・技能	82.7	78.0	76.7
	思考・判断・表現	69.1	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

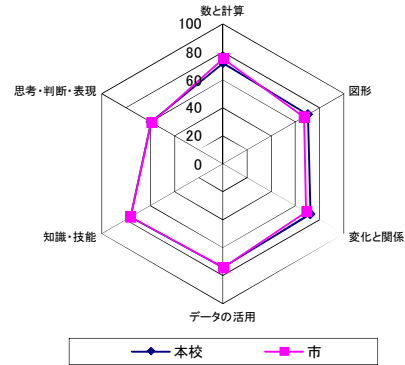
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市より高い。 ○「日本の主な地形(湖)の名称を理解しているか」を問う問題では、市の正答率より高い。 ○「オーストラリアの位置と国旗を理解しているか」を問う問題では、市の正答率より高い。地図から情報を読み取る学習を授業に意図的に取り入れている成果である。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・地図の活用や資料の読み取りを継続して行うことで、基礎基本の定着を図る。 ・国土の自然環境について 1人1台端末を活用し、児童が自ら進んで学ぶことができるよう工夫していく。
農業や水産業	平均正答率は、市より高い。 ○「米の生産の工程について理解しているか」を問う問題では、市の正答率より高い。実際の米づくりを体験する総合的な学習の時間との関連を図った成果である。 ●「水産物の流通の工夫について、資料をもとに判断しているか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。	・米づくりの体験活動を行っており、また、農業従事者が多い地域でもあるため、体験から学んだことを話題にしたり、地域の方から話を聞いたりする活動を行うことで、引き続き米づくりに関する興味関心を高めていく。 ・水産業の特徴やその流通の工夫について、様々な資料を通して多面的に考え、理解を深めていく。
工業生産	平均正答率は、市より高い。 ○「日本の工業の特色について、資料をもとに表現しているか」を問う問題では、市の正答率より高い。資料から情報を読み取る学習を意図的に続けている成果である。 ●「工業製品の分類を理解しているか」を問う問題では、市の正答率よりやや低く、課題が見られる。	・今後も資料を正しく読み取ることができるよう、繰り返し指導する。 ・教科書で紹介されている工業の6分類の特徴を考えさせ、身の回りの工業製品を観察したり、それがどこで生産されたのかを調べたりする学習を取り入れていく。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市より高い。 ○「沖縄県での自然環境を守る取り組みについて考えているか」を問う問題では、市の正答率より高い。 ●「国内の林業が抱える課題について考えているか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。	・森林資源の働きや育成・保護の取組、森林の保全について自分たちのできることを考える学習を取り入れていく。
日本の政治	平均正答率は、市より低い。 ○「国民と国会と内閣の関係についての理解をもとに、図を読み取っているか」を問う問題では、市の正答率よりやや高い。児童の生活と関連付けながら政治の仕組みについて学習した成果である。 ●「内閣の働きについて理解しているか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。	・ニュースや新聞など、時事問題と関連付けながら考える授業を展開することで、実感を伴った理解につながるようにする。 ・新聞やスライドを作る活動を取り入れ、学んだことを発信することで、理解を深められるようにする。
日本の歴史	平均正答率は、市より高い。 ○「大王について理解しているか」を問う問題では、市の正答率より高い。それぞれの時代の人々の暮らしについて、学校周辺の遺跡と関連付けながら調べを進めた成果である。 ●「元との戦いについての理解をもとに、防塁について表現しているか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。	・歴史上重要な場所や史跡等の場所を、地図で確認する活動を意図的に授業に取り入れていく。 ・1人1台端末を活用したり、司書と連携を図りながら図書室や南図書館の本を活用したりするなど、今後も資料の読み取りを継続して行い、基礎基本の定着を図る。

宇都宮市立雀宮東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	71.9	75.1	75.8
	図形	70.0	66.8	68.3
	変化と関係	72.2	68.8	65.0
	データの活用	74.2	74.1	63.6
観点別	知識・技能	76.4	76.1	75.8
	思考・判断・表現	59.4	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

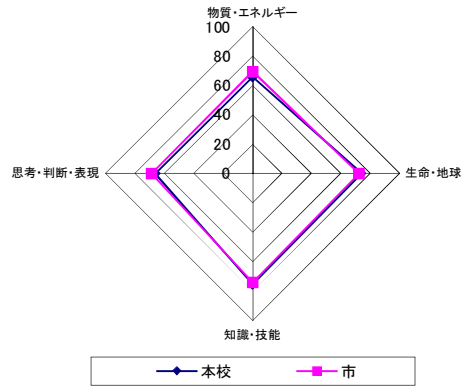
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市より低い。 ●「小数第一位×小数第一位(純小数同士の乗法)の計算ができるか」「分数×分数(約分あり)の計算ができるか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。 ●「文字を使って、2つの数量の関係を1つの式に表しているか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・整数や小数の計算の考え方をもとにして計算の意味や計算のしかたを再確認し、授業や朝の学習、宿題等で、プリント学習やAIDリルを活用した学習に繰り返し取り組ませることで基礎基本の定着を図る。 ・児童が文字を使うことの有用性を実感できるような活動を授業で意図的に設定するなど、工夫していく。
図形	平均正答率は、市より高い。 ○「高さが図形の外にある三角形の底辺と高さを読み取り、面積を求める式を理解しているか」「直径が与えられた円の面積を求める式を理解しているか」を問う問題では、市の正答率より高い。これは、図形の面積を求めるための必要な構成要素について調べ、理解を深めてきた成果である。 ○「線対称について理解し、示された方法で図形をつくることができるかどうかを説明することができるか」を問う問題では、市の正答率より高い。これは、線対称な図形の作図に繰り返し取り組み、性質についての理解を深めた成果である。	・プリント学習やAIDリルを活用し、いろいろな図形の問題に繰り返し取り組ませることで、さらに基礎基本の定着を図る。 ・教室の学習コーナーを活用し、既習の図形やその特徴をまとめたものを掲示し、視覚的に継続して学ぶことができるよう工夫する。
変化と関係	平均正答率は、市より高い。 ○「表から面積と数の割合を求め、どのにわとり小屋が最も混んでいるかを考察することができるか」を問う問題では、市の正答率より高い。これは、混み具合や人口密度に関する問題に繰り返し取り組んできた成果である。 ○「速さと道のりから、時間を求めることができるか」を問う問題では、市の正答率より高い。これは、速さと道のりと時間を単位量当たりの大きさと比べ、それらの関係性について実際の生活と関連付けながら理解を深めた成果である。	・朝の学習や授業、宿題等で、プリント学習やAIDリルを活用した学習に取り組ませ、さらに基礎基本の定着を図る。 ・面積と人数の割合から込み具合を考えたり、速さの単位の関係を用いて移動距離や時間を求めたりするなど、繰り返し問題を解くことで、授業で学んだ知識を「活用できる知識」へと発展させていく。
データの活用	平均正答率は、市とほぼ同じである。 ○「中央値を求めることができるか」を問う問題では、市の正答率より高い。これは、授業でデータを読み取ったり活用したりする活動を行ってきた成果であると考えられる。 ●「問題の場面を理解し、4日間に走った道のりの平均から、2週間に走ると考えられる道のりを求めることができるか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。	・各学年で取り扱うデータの整理の仕方について、算数だけでなく、社会科や他教科とも関連させ、実生活と結び付けた内容の授業を展開することで、データの活用能力を高めていく。 ・データから得た結論を、次にどのように生かしていけばいいのかが、見通しをもって考えることができるような問題を、意図的に設定するなど工夫していく。

宇都宮市立雀宮東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	65.7	69.5	65.2
	生命・地球	74.0	72.3	70.1
観点別	知識・技能	75.2	74.0	70.7
	思考・判断・表現	66.2	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市より低い。 ○「水溶液を熱すると固体が残ったことから、どの水溶液であるかを推測できるか」を問う問題では、市の正答率より高い。これは、授業の中で予想をもとに実験を行う活動を取り入れてきた成果である。 ●「ふりこの周期はふりこの長さに依存することを理解し、同じ周期になるふりこを指摘できるか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。 ●「電流の向きを変えたとき、電磁石がどの向きを向いて止まるかを推測することができるか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。	・知識の定着に向け、今後も引き続き実験を通して理解が深まるように指導する。 ・課題となっている科学的に考える力を育てるために、根拠をもとに実験結果を予想し、実験からその結果を考察する活動を継続的に行う。またその際、学びが深まるよう話合いの場を多く設定する。
生命・地球	平均正答率は、市より高い。 ○「浸食について理解しているか」や「流れる水のはたらきについて、仮説が正しいといえるための結果を推測できるか」を問う問題では、市の正答率より高い。これらは、模型を活用して実際に実験したり、1人1台端末を活用して映像を見たりして、流れる水のはたらきの理解につなげた成果である。 ●「農家がテントウムシを畑に放す理由を食物連鎖をもとに推測できるか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。	・観察や実験では、1人1台端末等のICT機器や模型を活用して、より実物や実際の動きを理解できるよう学習を進めていく。 ・生命や地球に、さらに興味関心がもてるよう、日常生活と関連付けた課題を設定するなど、学習問題を工夫していく。

宇都宮市立雀宮東小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学校課題で1人1台端末の効果的な活用について研究を進めている。	・1人1台端末を授業に取り入れ、各教科で効果的に活用する。	・3～6年生では、「インターネットやパソコンを利用して、学習に関する情報を得ている」「パソコンを使って、相手に分かりやすく自分の考えや調べたことを伝えることができる」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、市と比べて大きく上回っている。
・日記、作文指導	・授業や家庭学習で、学年に応じた学校指定用紙に、日記や作文を書き、書く力を養う。	・6年生は、「目的や意図に応じて、書き表し方を工夫する」問題では、正答率が市の平均より高い。「指定された長さで文章を書く」「予想される反動とそれに対する意見を書く」問題では、正答率が市と比べて低く、課題が見られる。
・家庭学習の充実	・全校児童統一のファイルに、自主学習記録カードと音読カードを貼り、毎日の学習記録をつける。家庭のサインと担任のサインを毎日記入し、児童の学習を励ます。	・3～6年生では、「授業で習ったことをその日のうちに復習している」「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、市と比べて上回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・国語「書くこと」では、「内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書く」「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にする」問題で、国、県、市の平均を上回った。これは、学校全体で日記・作文指導に取り組んできた成果であると考えられる。しかし、市の調査6年生国語では、「指定された長さで文章を書く」「予想される反論とそれに対する意見を書く」問題で課題が見られた。そこで、次年度は、国語の授業だけでなく他教科にわたり、自分の考えをノートに分かりやすく書く活動や様々な表現方法を生かした日記・作文指導を充実させ、書く力の育成に努める。

・算数では、「数と計算」の領域で、市より正答率が低く課題が見られた。計算の意味を理解することや、計算問題に繰り返し取り組ませることで基礎基本の定着を図っていきたい。また、今年度力を入れて取り組んできた「図形」の領域では、国、県、市の正答率とほぼ同じか高い結果となった。次年度も指導を充実させ、力を伸ばしていきたい。

・市の調査において、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、市の平均を大きく上回った。今後も指導を充実させ、児童が問いをもち解決の見通しを立てて主体的に活動したり、学習の振り返りを計画的に実施し次の学習に生かしたりできるようにしていくことで、児童の学習意欲を高めていく。